

平成 28 年度 第 2 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 28 年 8 月 29 日（月） 10：00～11：30

2 開催場所

札幌市役所本庁舎 14 階 1 号会議室

3 出席者

(1) 委員

高野委員長、阿部委員、遠藤委員、武者委員

(2) 札幌市職員

財政局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、病院局経営企画課長 他 9 名

4 次第

(1) 開会

(2) 財政局長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 報告事項

工事等発注状況について（平成 28 年度 6 月末）

(5) 抽出工事等の決定・審議

(6) その他

(7) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

【委員長】 随意契約の見積合せと特定の違いは何か。

【札幌市】 見積合せは、金額が 250 万円以下の工事、100 万円以下の業務について 3 者見積りを行ったもの。特定随意契約は、特定の会社以外に履行可能なものが無く、その会社としか契約ができない案件で、1 者に特定して随意契約を行ったもの。業務

の特定随意契約の件数がかなり多いが、その大半は建築物等の実施設計を履行した会社に当該工事の監理を委託する契約である。

【委員長】 総合評価や成績重視など、入札方式によりくじ引きの発生傾向に変化があるのか。

【札幌市】 総合評価方式は金額以外の技術要素を加味するので、くじ引きの発生は非常に低い。一方、成績重視型は一般案件と同様、金額のみの競争であり、くじ引きの発生に関して余り差異はない。

(2) 抽出工事等の決定・審議

ア 中央中学校改築工事

【委員】 この入札に参加可能な市内企業数はどれくらいか。

【札幌市】 入札参加資格者名簿の建築工種・A等級に登録している市内企業は48者。そのほとんどが施工実績を有しており、基本的に参加できると考えている。

【委員長】 そのうち5者しか参加していない原因は何か。

【札幌市】 工期が長く、既存校舎に隣接して施工するため、難易度も高く、工程管理などが難しい工事であることが考えられる。

【委員】 参加者が少ないのは、安全管理など工事の難度が価格に反映されていないことが要因か。

【札幌市】 適正に積算しているが、価格に反映されない要素もある。また、ほぼ同時期に3校の小中学校の工事を発注しており、それぞれの施工内容を比較しながら各企業が参加する案件を選定した結果ではないかと捉えている。

【委員】 入札金額にばらつきがあるが原因は何か。

【札幌市】 建築工事などの積算には非公表の見積単価が含まれており、正確な金額の算出は困難。加えて、長期の大規模な工事でも多く、このような施工条件の中で各企業が自社の利益を確保した金額で入札したため。

【委員長】 前渡金はどのようになっているのか。

【札幌市】 契約金額の4割を前払金、2割を中間前払金として、合計6割までを前渡金として支払うことが可能。適宜、適切に下請への支払がなされることも非常に重要。

イ 公営住宅解体工事

【委員】 失格が多い原因は何か。

【札幌市】 解体工事の積算は非公表の見積単価の比率が高いことが影響している。また、単価改定を行った直後の発注であり、参加者が新単価を十分に把握できずに入札したことが考えられる。単価改定から幾分経過すると、積算資料の公開により単価が明らかとなり、失格が少なくなる傾向。

【委員長】 失格が多いのは、単価の公表方法に問題があるのではないか。

【札幌市】 発注時期の問題と捉えている。年度当初の高額な案件であり、参加企業の受注意欲が非常に高く、最低制限価格未満の低廉な入札が多くなったと考えている。

ウ 発寒鉄工団地9号線歩道新設工事

【委員】 的確な積算が可能であるにも関わらず、予定価格をかなり超過した高額な入札がある一方で失格もある。最低制限価格以外での同額入札もあるが、どのような理由が考えられるのか。

【札幌市】 最低制限価格と同額入札は正確な積算をしている。失格は歩掛等細かい部分での積算誤りが考えられる。また、百万円単位などに丸めた結果、最低制限価格以外でも同額入札が生じている。一方、予定価格超過の入札は、積算能力の優劣ではなく、経営戦略上の意図によるものと捉えている。

【委員長】 入札に参加し、他者の参加状況を把握しようとする意図か。

【札幌市】 電子入札では、開札当日、当該入札の参加者全員に落札候補者を通知するシステムとなっている。入札結果は落札決定後に一般公表しているが、いち早く他社の情報を得るために参加することもあると察している。

【委員】 入札に参加すると、どうして事前に情報を得られるのか。

【札幌市】 電子入札は開札後に資格審査を行うため、参加者全員に保留通知を送付する必要があるが、その際に、審査順上位3番までの落札候補者の企業名と入札金額を表記している。

エ 3・3・6西5丁目・樽川通電線共同溝新設工事

【委員長】 入札参加者が2者であり、非常に少ない。どのような理由か。

【札幌市】 電線共同溝工事の入札参加者が増えない要因は3つ。まず、工事場所の交通量が非常に多く、歩行者や通行車両などに十分な配慮が必要であること。更に、施工の支障となる配管などが既に埋設されており、工程どおりに進まないこと。また、北電やNTTなどの各電線管理者との煩雑な調整が必要であり、これが敬遠される最も大きな理由と捉えている。

【委員長】 入札参加者が無く、不調となったことはあるのか。

【札幌市】 ここ2年ほど不調は無いが、今年度発注した電線共同溝工事の入札参加者数の平均は6者弱であり、土木工事全体の19.9者と比較して非常に少ない。また、各関係機関との調整を要するため、配置予定技術者には電線共同溝工事の施工経験を求めているが、経験を有する技術者が限られており、一つの企業が電線共同溝工事を複数受注することが厳しい状況。

【委員長】 調整が難しく、入札参加者が少ない割に入札金額は最低制限価格と同額である。もう少し高い価格での競争を目指してもいいのではないか。

【札幌市】 双方の企業とも電線共同溝工事の受注意欲が高いことが伺える結果と受けとめている。

【委員】 当該工事以外の電線共同溝工事の入札においても、参加者や落札者が固定化するような傾向はあるのか。

【札幌市】 電線共同溝工事の入札参加者は、多い案件でも7、8者程度。今年度発注した6件については、全て異なる企業が落札している。

【委員長】 来年2月9日までの工期で冬季施工となるが、除雪のコストなどの積算は難しくないのか。

【札幌市】 冬季にかかる工事は、除雪費、冬季割増などを含めて積算するが、積算は難しくはない。

【委員長】 現実的にどのように施工するかなど、工程管理については受注者にある程度裁量の余地があると考えていいのか。

【札幌市】 そのとおり。当該工事の場所は樽川通で、商店街と住宅地が混在し、商店街と地域住民の要望が異なり、双方の調整が非常に難しい地区。実際の現場では夜間工事が昼間になるなど、設計時の想定から随分変更となっている。

オ 厚別処理区川北地区下水道新設工事

【委員長】 同額入札に1番から番号がついているが、電子入札システムによるくじ引きで順番を決めているのか。

【札幌市】 電子入札で同額入札があった場合、事後審査を行うため、電子入札システムでくじ引きを行い、同額の全企業に審査順を付番。くじ引きの方法は、企業が入札の際に選定した任意の3桁の数字と入札時刻のミリ秒を活用して順位を算出する。企業は保留通知で自社の順番を知ることが可能。

【委員長】 くじは、最終的には乱数のような形で決められるのか。

【札幌市】 計算式が決まっており、その算定方法も全て公表している。

【委員長】 入札した時刻によって順番がわかるのか。

【札幌市】 入札時刻は1秒より細かいミリ秒を活用しており、調整は不可能。くじは本市独自ではなく、他の自治体も使用しているパッケージソフト。

【委員】 新規参入を促す意図がある入札ということだが、実際に下請の施工実績で参加したのは何社あったのか。

【札幌市】 この工事は下水道としては非常に簡単な工事ということで下請対象案件として選定したが、下請実績のみの企業に限定した入札ではないため、元請実績のある企業も参加しており、32者のうち3者が下請実績で参加したと捉えている。

【委員】 この工事は下請実績のみの企業がくじで落札し、入札の趣旨が反映されたが、今後、企業育成の観点からもっと確率の高い仕組みづくりが必要ではないか。

【札幌市】 今年度発注の下請対象案件で、実際に下請実績で落札したのは6件中2件。元請実績のある企業が受注しにくい現状において、下請実績のみの企業に入札参加資格を限定する運用は難しい。この工事は既にしゅん功し、結果的に品質等に問題は生じていないが、下請対象案件は下請実績のみで履行品質の確保が可能か否かの判断により決定する。今後、趣旨がうまく反映できるよう、工事全体の発注件数やバランスも考慮しながら調整してまいりたい。

【委員長】 入札参加資格者名簿に登録されている企業のうち、実際に札幌市の工事を受注している割合を分析したことがあるのか。くじ引きが多いと、くじ運の悪い企業もありそうだ。業界の育成という観点から、満遍なく落札しているか、全く受注できない企業がどれくらいあるのか、非常に興味深い。

【札幌市】 年間、相当数の工事を発注しており、くじ運は当然あるが、全く受注できない企業は多くはないと思う。工種別の受注状況は把握していないが、本来受注したい工事が落札できないという業界の声は何う。

(3) その他

次回の抽出工事の選定は阿部委員が行うことを決定した。